

グローバル・ジャスティス 第65回

「封城(ロックダウン)」と「自粛」のはざままで —COVID-19対策の歴史的文脈—

飯島 渉(青山学院大学 教授)

感染症の歴史学の専門家として知られる飯島渉氏を迎え、グローバル・ 이슈としての感染症対策の来歴を顧みつつ、コロナ・パンデミック時代における文理融合的な知の創発の可能性を探る。



定員40名・事前予約制

日時: 2021年7月8日(木)
16:30 - 18:00

会場: 同志社大学烏丸キャンパス
志高館 SK118 教室

ji-gs@mail.doshisha.ac.jp まで氏名を明記し
申込メールを送付してください。

1960年生まれ。青山学院大学文学部教授。「感染症の歴史学」を専門とし、東アジアのペスト史やマラリア史を研究してきた。『感染症の中国史』(中公新書、2009年)、『高まる生活リスク—社会保障と医療』(共著、中国的問題群、岩波書店、2010年)、『感染症と私たちの歴史・これから』(清水書院、2018年)など。長崎大学熱帯医学研究所客員教授、獨協医科大学特任教授、目黒寄生虫館理事。感染症対策の資料を整理・保存する「感染症アーカイブズ」(<https://aidh.jp/>)の代表もつとめる。

主催: 同志社大学グローバル・
スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp